

北海道全十一国

渡島国（おしまのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれた。現在の渡島支庁と檜山支庁のそれぞれ南部にあたる。

歴史・沿革

明治2年（1869年）8月15日に設置された。設置時点では、亀田郡、茅部郡、上磯郡、福島郡、津軽郡、檜山郡、爾志郡の七郡で構成された。明治5年（1872年）の人口は、7万5830人を数え、北海道人口の6割に達していた。

明治14年（1881年）7月、津軽郡と福島郡を合わせて松前郡とし、六郡になった。

後志国（しりべしのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれた。現在の後志支庁のうち虻

田郡と小樽市銭函4〜5丁目相当区域を除いた大部分と、檜山支庁の北部にあたる。

歴史・沿革

明治2年（1869年）8月15日に設置された。久遠郡、奥尻郡、太櫓郡、瀬棚郡、島牧郡、寿都郡、歌棄郡、磯屋郡、岩内郡、古宇郡、積丹郡、美国郡、古平郡、余市郡、忍路郡、高島郡、小樽郡の十七郡で構成された。明治5年（1872年）の調査における人口は1万9098人で、北海道の中では渡島国に次いだ。

胆振国（いぶりのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれた。現在の胆振支庁の全域、渡島支庁の長万部町と八雲町のうち旧熊石町を除く部分、後志支庁の虻田郡、石狩支庁の千歳市・恵庭市、上川支庁の占冠村にあたる

歴史・沿革

天塩国（てしおのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれた。現在の留萌支庁の全域と上川支庁の北半および宗谷支庁の豊富町にあたる。

歴史・沿革

明治2年（1869年）8月15日に設置された。増毛郡、留萌郡、苫前郡、天塩郡、中川郡、上川郡の六郡で構成された。明治5年（1872年）の調査では、人口1576人を数えた。

北見国（きたみのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれた。領域は現在の網走支庁と宗谷支庁のうち豊富町をのぞいた部分にあたるが、設置当初は現在の網走支庁のうち美幌

町と津別町にあたる部分と大空町の一部は含まれなかった。

歴史・沿革

明治2年（1869年）8月15日に設置された。宗谷郡、利尻郡、礼文郡、枝幸郡、紋別郡、常呂郡、網走郡、斜里郡の八郡で構成された。明治5年（1872年）の調査では人口1511人を数えた。

明治14年（1881年）7月に、釧路国の網尻郡を北見国の網走郡に合して編入した。

日露戦争後には南樺太が日本領となったが（1945年）、北見国にも千島国他にも編入されていない。

日高国（ひだかのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれる。領域は現在の日高支庁にあたる。

歴史・沿革

代に設定された地方区分の国の一つである。北海道に含まれる。領域は現在の釧路支庁および十勝支庁足寄郡の大半にあたるが、設置当初は現在の網走支庁大空町、美幌町、津別町にあたる地域も含んでいた。

歴史・沿革

1869年（明治2年）8月15日に設置。白糠郡、足寄郡、釧路郡、阿寒郡、網尻郡、川上郡、厚岸郡の7郡で構成された。1872年（明治5年）の調査では、人口1734人を数えた。

1881年（明治14年）7月に、網尻郡を北見国網走郡に合併させた。

根室国（ねむろのくに）は、日本の明治時代に設定された地方区分の国の一つである。根室はもと「ねもろ」と読んだ。北海道に含まれる。領域は現在の根室支庁と歯舞諸島にあたるが、設置当初は色丹島も含んでいた。

